



公益社団法人郡山青年会議所 2024年度スローガン

Do one's best!

～心を尽くして行動しよう！
私たちの想いが新世紀 郡山の扉を開く～

【お話し】

私は二〇一六年に郡山青年会議所の門を叩きました。父がOBで、いずれは青年会議所に入会するように言われていたこと、まずはやってみないと分からないという性格も重なり入会を決めました。一年目夜が更けるまで延々と会議をする先輩方の姿に疑問を抱いたことがありました。なぜ、仕事でもないのにここまで真剣に話し合いをするのだろうか。入会したばかりの私には先輩方の地域や組織に対する想いや情熱について理解ができませんでした。

そんな私でも青年会議所運動・活動に奔走する先輩方や同志の姿を追いかけると、生まれ育った地域に対して何かできることはないかと考えるようになりました。

「皆さんの夢は何ですか。」子供のころの私たちは目を輝かせ、未来に希望を抱き、お互いの夢を語ることができました。しかし、大人になるにつれて現実に触れ、そんな夢について現実を言い訳にして、いつしか夢を語ることをやめてしまった人が多いと思います。JCは地域の未来を語り合い、地域の課題に本気で向き合い、明るい豊かな社会を実現する団体です。先行き不安な世の中だからこそJCが地域を照らす光となり、地域の未来を牽引していかなくてはなりません。

【組織の未来のために】

JCは四十歳までしかできません。限られた活

公益社団法人郡山青年会議所
二〇二五年度 理事長立候補所信

二〇二四年度 副理事長 佐久間 悠治

動期間だからこそ、自分たちが夢描く地域の未来のために全力で語り合い、全力で実現に向けて取り組む必要があります。本気で取り組むからこそ、その想いが周囲に伝わり実現のために大勢の人を巻き込んで進むことができます。本気で語り合う仲間が一人でも多く増えることで、さらに伝播する力を増やすこととなります。青年会議所の本質を会員一人ひとりが理解し行動することで、共感の輪が広がり組織の未来を明るく照らす大きな力になります。

【想いを伝え共に】

いっどこでも誰とでも繋がることのできる時代となり、自分の考えや価値観に近い情報をAIが自動的にピックアップし、新しい情報が次から次へと流れてくるようになりました。これまでも様々な工夫を凝らして発信を行ってきましたが、これまで以上に受け手側に伝えるから伝わる情報へと変化していかなくてはなりません。私たちも単に運動・活動内容を発信するのではなく、運動・活動の理念や目的を多くの人々に共感型の情報として発信していきます。

【子供たちの笑顔のために】

核家族化や共働きすることが当たり前前の時代となり、学校に求められることが過剰になってしまった結果、学校と親との間で歪みが生まれています。これを解決するためには地域の力が必要です。私



公益社団法人郡山青年会議所
2025年度理事長候補者 佐久間 悠治 君 プロフィール

氏名	佐久間 悠治 (37歳)
生年月日	1987年6月30日
会社名	株式会社磐梯園 (造園業)
役職	常務取締役
住所	〒963-0541 郡山市喜久田町堀之内字下前田 52-1
TEL	024-959-3866
FAX	024-959-3895
最終学歴	2012年3月 日本大学理工学部 中退
職歴	2012年4月 株式会社磐梯園 入社
J C 歴	2016年 入会 総務委員会 委員
	2017年 青少年育成委員会 委員
	2018年 会員開発委員会 委員
	2019年 総務委員会 副委員長
	2020年 広報委員会 副委員長
	2021年 会員開発委員会 委員長
	2022年 指導力開発室 室長
	2023年 副理事長
JC 出向歴	2024年 副理事長
	2017年 福島ブロック協議会 アカデミー委員会 委員
	2018年 東北地区協議会 総務広報委員会 委員
	2022年 日本青年会議所 まちのレジリエンス確立委員会 委員
	2024年 日本青年会議所 スポーツ推進委員会 委員 東北地区協議会 組織連携推進委員会 副委員長

令和6年7月現在

たちが子供だった頃、地域にはお祭りや体育祭など地域の大人と関わるものがたくさんありました。そして自分の子供でなくても、気にかけて、何か悪いことをしていれば当たり前のように注意するなど、正しいことと正しくないことをしっかりと認識させてくれました。子供たちにとって地域が安心できる場であれば、多くの笑顔を生み出すことができると思います。子供たちが夢や希望を描ける地域を創っていくことが私たちの使命なのです。

【結びに】
人はいくつからでも変わることができます。青年会議所はすべての人に平等に成長の機会を与えてくれる組織です。地域のことを真剣に考え、地域を変えることができるのは、その地域に住み暮らす私たちしかいないのです。ただ、地域をより良くすることは簡単ではありません。簡単ではないからこそ、自分たちが思い描いた夢を本気で語り、それを実現するために多くの仲間と議論し、全力で取り組むことをお願い申し上げ、立候補所信とさせていただきます。

楽都郡山の未来を
考える講演会



五月十一日(土)、郡山市中央図書館三階視聴覚ホールにて「楽都郡山の未来を考える講演会」が開催されました。

主催者挨拶では織田

理事長から、郡山市は「音楽都市宣言」を行ってから十五年以上が経過し、「楽都郡山」としての認知度は高まっているものの、市民一人ひとりに完全に浸透しているとは言い難い状況にあるため、音楽を通したまちづくりについてこの機会を通して皆様に考えていただきたいと、本講演会の趣旨を説明されました。

来賓挨拶では品川 万里 市長から、郡山市における「音楽の日」制定の経緯についてご説明があり、憲法における「表現の自由」や「楽市楽座」という用語を引用されながら、民間の団体の熱意や行動力に敬意を表するとともに、活動に対して激励のお言葉をいただきました。

本講演会の趣旨説明をまちづくり委員長の高橋 祐樹 君が行い、続いてお二人の講師にVTR出演いただきました。



続くパネルディスカッションでは、高橋まちづくり委員長をファシリテーターに加え、

- ① 「楽都郡山」への印象、「楽都郡山」はどうあるべきか
- ② 行きたくなる、参加したくなる音楽イベントとは
- ③ 「楽都郡山」の今後の可能性

三つのテーマに対して四人による白熱した議

た。

お一人目として、音楽都市宣言時の市長である原 正夫 様に、郡山市の音楽の歴史と「郡山市音楽都市宣言」に至った経緯と想いを語っていただきました。

お二人目として、株式会社郡山コミュニティ放送代表取締役会長 鈴木 則雄 様に、「ワンステップフェスティバル」開催によって郡山市の音楽文化、自身はどう変わったかを語っていただきました。

講演会では、大槻 俊介 様、辻本 美博 様、PAKSHIN 様の三名の講師から、主催されている音楽イベント、音楽活動についてご講演をいただき、まちづくりにつながる音楽イベントを主催している想いや、市民の主体性や他の地域との連携を促しつつ、市民や様々な団体を巻き込んでいくことが重要であるという考えなど、様々な視点から活動に対する想いを伺うことができました。

論が展開されました。

最後には辻本様のクラリネットとPAKShin様のピアノによる演奏会が開催されました。

今までの講演やパネルディスカッションの空気を一変させる、素晴らしい演奏とパフォーマンスをいただきました。

二人の協演に会場が魅了され、感動とともに講演会が閉会となりました。

五月例会並びに会員親睦会 〜絆のゴー・ファイト!!〜

五月十八日(土)、郡山市青少年会館にて「公益社団法人郡山青年会議所二〇二四年度五月例会並びに会員親睦会」絆のゴー・ファイト!!」が開催されました。

■五月例会

理事長挨拶では「誰か一人の意識を変えられることができれば、それは事業として成功である」というお言葉がありました。先日開催された「楽都郡山の未来を考える講演会」に多くの反響が寄せられたこと、これから事業が活発化していくことなどから、メンバーに対して意識を高めて取り組んでほしいとのお話がありました。

続いて会務報告と各出向者報告が行われ、会場と服装がいつもと違うせいも、登壇者もいつもよりリラックスした表情で報告に臨んでいました。

■会員親睦会〜絆のゴー・ファイト!!〜

例会後には男女を問わず楽しめるスポーツを通じて、結束力を高め親睦を



深めることで今後の郡山青年会議所の運動・活動のさらなる発展を目指すために、ドッジボール大会が開催されました。

四つのチームに分かれ、リーグ戦方式による試合が行われました。戦略的に攻めるチームや身体能力を生かして動くチームなど、各チームの個性が表れた白熱した試合が展開されました。スーパープレーが飛び出た時などは拍手が沸くなど、皆童心に帰ったかのように楽しみながら、チームワークを高めていました。

その後、併設されている大槻公園にて、ドッジボールのチーム毎に分かれてバーベキューを行いました。

火起こしや配膳、調理を皆で行うことにより、ドッジボールの労をねぎらいながら、親睦を深めました。

晴天にも恵まれ、メンバー同士で会話も弾み、さらに絆が深まった会員親睦会となりました。



第二十七回わんぱく相撲 こおりやま場所

五月二十六日(日)、郡山相撲場にて「第二十七回わんぱく相撲こおりやま場所」が開催されました。

わんぱく相撲は小学四年生から六年生までを対象とした相撲大会で、こおりやま場所は郡山相撲協会との共催で行われています。

リーグ戦による対戦で白熱した取組が展開され、わんぱく力士たちの熱戦にメンバーも周りにいた関係者の方も目がくぎづけになりました。

勝敗がつくことで心の強さを手に入れ、相撲を通して礼儀や礼節といった、学ぶ機会が少ないことを経験できる良い機会になったと思います。

当日は強風が続く中での開催ではありましたが、全取組を無事に終えることができました。



わくわくチャレンジキャンプ 二〇二四事前説明会

六月一日(土)、郡山市労働福祉会館にて「わくわくチャレンジキャンプ二〇二四」安積疏水つてなあに?」の事前説明会が開催されました。

本番に向けて二日間行動を共にする仲間との結束を深めること、併せてキャンプ当日のルールを事前に周知・練習することで、当日の円滑な進行に繋げることを目的に実施しました。

キャンプでお手伝いいただく学生ボランティアにも来ていただき、八班に分かれて自己紹介や班のリーダーを決めるなどのグループワークを行いました。

また、水と緑の案内人の会の方に、郡山市発展の基礎を築いた安積疏水や安積開拓に関する説明や、キャンプで訪れる場所に関する謎ときをしていただきました。

学生ボランティア、水と緑の案内人



の皆様のおかげもあり、子どもたちもすぐに打ち解け、和気あいあいとグループワークに取り組んでいました。同時に当日の持ち物や緊急連絡先など、安心して子どもたちを送り出せるよう、保護者の方向けに説明会を実施しました。

最後に「整列」の練習を行い、グループの団結力を高めての閉会となりました。



第六十三回 「久米賞・百合子賞」 審査員初顔合わせ会

六月十日（月）、郡山ビューホテル五階プリエールにて「第六十三回「久米賞・百合子賞」審査員初顔合わせ会」が開催されました。

織田実行委員長の挨拶では、郡山青年会議所が創立した次の年から「久米賞・百合子賞」が開催され、当時から瑞々しい感性で描かれた多くの優れた作品が発表されてきた。震災時やコロナ禍であっても、決して中断することなく歴史を紡いできた賞である。私たちは文学に関して素人の部分がある。



長から委嘱状が手渡されました。

審査員長選出では前年に引き続き、溝井勇様に務めていただくことになりました。

審査員長挨拶では、この「久米賞・百合子賞」に十年以上携わっている。年々この事業の重み、偉業を自分なりに深く考えるようになってきた。郡山経済界をこれから牽引していく若き仲間た



ぜひプロフェッショナルの先生方にご協力をいただきながら、本年もより良い「久米賞・百合子賞」にしていきたいとお言葉がありました。続いて審査員の先生方へ委嘱状の交付が行われ、一人ひとりに織田実行委員

ちと一緒にになり、また、それに続くであろう中学三年生の瑞々しい感受性に触れることは、何事にも代えがたいものだと思う。新しい素晴らしい作品に触れることを期待したいとお言葉がありました。

その後は議事に移り、開催要領や応募要項、審査方法について協議し、無事に承認いただくことができました。

会議後は同会場にて懇親会が行われ、審査員の先生方と久米賞・百合子賞の話や中学校時代の思い出、先生方の近況などをお話しし、親睦を深めることも有意義な時間を過ごすことができました。

第二十七回わんぱく相撲 福島ブロック大会

六月十五日（土）、南相馬相撲場にて「第二十七回わんぱく相撲福島ブロック大会」が開催されました。

郡山からはこおりやま場所から勝ち上がった四人のわんぱく力士が参加しました。



当日は晴天に恵まれ、日々練習を重

ねてきたわんぱく力士たちの取り組みを後押ししていました。

郡山から参加したわんぱく力士の四人が優勝、準優勝のタイトルを取る結果となり、全国大会出場への切符を勝ち取りました。

六月例会



六月二十日（木）、郡山市郡山公会堂にて「公益社団法人郡山青年会議所二〇二四年度六月例会」が開催されました。

理事長挨拶では郡山青年会議所の行ってきた事業について、様々な場面で話題に上ることがある。郡山市が発展してきた背景には、郡山青年会議所がまちづくりの一翼を担ってきたこと



があることを胸にとどめておいてほしいとのお話がありました。

その後、会務報告と各出向者報告が行われました。

六月下旬から事業が目白押しとなり、担当の各委員長、出向者からはチラシやポスターを用いての案内があり、本格的に運動が始まってきたことを肌で感じる例会となりました。

二〇二四年度 福島県予選野球大会

六月二十二日（土）、郡山市菅日和田野球場にて二〇二四年度福島県予選野球大会が開催されました。

郡山青年会議所はすこぎクラブとして出場し、六チームによるトーナメント戦が行われました。

初戦、昨年の優勝LOMであるいわき青年会議所野球部と対戦し、歴史に残るであろう熱戦が



繰り広げられました。

タイブレークまでもつれる試合となり、あと一歩のところまで惜しくも敗退となってしまいました。

【試合結果】

	1	2	3	4	5	6	R
いわき	0	0	1	0	4	4	9
郡山	0	2	0	3	0	3	8

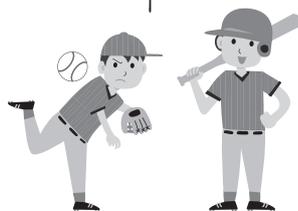
いわき青年会議所野球部…榊田、松崎-松本
郡山JCすこぎクラブ…大越-阿部

「スターティングメンバー」

- ①太田 ショート
 - ②平方 セカンド
 - ③七海 センター
 - ④圓谷 サード
 - ⑤大原 ファースト
 - ⑥阿部 キャッチャー
 - ⑦大越 ピッチャー
 - ⑧高橋 ライト
 - ⑨菅野 レフト
- 監督・飯島
キャプテン・佐藤

決勝はいわき青年会議所野球部と白河JCすこぎクラブで行われ、いわき青年会議所野球部が昨年に続き優勝となりました。

目標としていた優勝は叶いませんでしたが、試合や練習を通して会員同士の親睦を深めることができました。



わくわくチャレンジキャンプ 二〇二四く安積疏水ってなにあに

六月二十九日（土）、三十日（日）に「わくわくチャレンジキャンプ二〇二四く安積疏水ってなにあに」が開催されました。

この事業は郡山市内の小学四年生く六年生を対象に、郡山の魅力を知り愛郷心を抱ききっかけを創る目的で実施されました。

■一日目：六月二十九日（土）

安積疏水土地改良区事務所に集合し、学生ボランティアの紹介や事業の流れを説明し、出発式を行いました。始めは緊張していた子どもたちもファンクションが進むにつれて緊張が和らぎ、班同士の会話も増えていきました。

最後に思い出シートが配られ、安積疏水を巡る旅がスタートしました。

収穫体験場所の鈴木農場では、鈴木光一様より挨拶をいただき、職員の方より野菜や収穫についてご説明いただきました。その後、畑ごとに分かれて収穫の仕方を教わり、レタスやじゃがいも、にんじんの収穫体験を行いました。



ました。子どもたちは大きな野菜を手にとり誇らしげに自分の取った野菜を掲げていました。

その後ほととあたみにて昼食を取り、安積疏水の守護神とされる安積疏水神社や、安積疏水を利用した水力発電所である丸守発電所にて、水と緑の案内人と東京電力社員の方から、安積疏水に関する貴重なお話を聞くことができました。

その後、安積疏水工事で一番初めに工事が始まった十六橋水門を見学し、子どもたちに安積疏水に関する知識を深めてもらいました。

キャンプ地である郡山市少年湖畔の村では、子どもたちがテントの設営、火起こし、カレーづくりの班に分かれ、初めての作業で四苦八苦しながらも、それぞれ自分の役割に対して責任をもって取り組んでいました。

夕食後はキャンプファイヤーが行われ、レクリエーションを行いながら友情を深めていました。

■二日目：六月三十日（日）

朝寝坊する子は一人もなく、皆で一緒にラジオ体操を行いました。



ロールパンサンドを一人ひとりに作ってもらい、楽しみながら朝食をとりました。

その後、テントの片づけや使用した場所の掃除を皆で行いました。

研修室にて鬼多見先生による「きれいなお水を守るための勉強会」が開催され、猪苗代湖の形成や概要の講義、水質調査の実験を行いました。

性質により色が変わるPH試験では子どもたちが率先して先生に質問するなど、意欲的に取り組んでいました。

その後、実際に猪苗代湖に行きごみひろいを行い、猪苗代湖や身の回りの水環境を守る重要性を先生から教えていただきました。



昼食を皆でとった後は、二日間の思い出をふりかえる思い出シートを作成し、安積湖水のことやキャンプのこと、友達のことなど、わくわくした気持ちでそれぞれの表現で色鮮やかに描いてもらいました。

今回のキャンプ事業を通して子どもたちは安積湖水を知り、ふるさとの魅力を知ること、愛郷心を育むきっかけが芽生えたと思います。「楽しかった!」、「帰りたくない!」などの声が多く聞こえ、皆本当に楽しんでいただけたと伺えました。

第五十四回 福島ブロック大会 in たむら

七月六日(土)、七日(日)に「第五十四回福島ブロック大会 in たむら」が開催されました。

福島ブロック協議会最大の運動発信の場であり、「Excitep エキサイトリップ」ふるさとが織りなす魅力の旅の「スローガンのもと、(一社) 田村青年会議所の主管で行われました。

■一日目・七月六日(土)

グリーンパーク都路にて、「たむら愛郷祭」や「親子で楽しむ防災減災体験イザ!カエルキャラバン!!」などが行われました。また、会場には「Discover Fukushima × Taiwan ブース」をはじめとする地域の農産物×飲食店のコラボブースや、地域資源の魅力を生かした体験ブースなどが出展されていました。

皆イベントやブースに参加すること

で、たむらの歴史を学び、文化を知り、食で満たされ、田村圏の人との出会いを楽しんでいました。

その後の大懇親会では田村市のBBQインストラクターによる豪華ディナーコースがふるまわれ、皆その美味しさに感動しながら食事を堪能していました。

ステージパフォーマンスでは他LOMメンバーと一緒に盛り上がり、親睦を深めました。

■二日目・七月七日(日)



田村市民文化センターにてアカデミー委員会成果発表会「Shining One」の組織を目指して、第二回理事長座談会、記念式典が開催されました。成果発表会では組織(LOM)をより良くするための方法について、塾ごとに趣向を凝らした発表が行われました。

出向している黒田委員、橋本委員もメンバーの声援に後押しされながら堂々と発表していました。見事黒田委員の所属する星塾が優秀賞を受賞することができ、一緒になって喜びを分かち合いました。

記念式典では柳沼ブロック会長による主催者代表挨拶が行



われ、来賓の方々への感謝のお言葉と、大会設営に携わったメンバーへの労い、ブロック大会を通して感じた多くの気づきや学びをLOMのJC運動へ還元してほしいとの願いを語られました。

その後福島ブロック協議会二〇二五年度会長候補者が発表され、会長候補者である(一社) 浪江青年会議所の永橋洋平君が次年度へ向けての決意を語られました。

大会旗伝達式では大会旗が(一社) 浪江青年会議所に手渡され、浪江町、双葉町、大熊町及び葛尾村の三町一村における次年度ブロック大会の開催が宣言されました。



理念共感拡大セミナー

七月十三日(土)、「理念共感拡大セミナー」がビッグパレットふくしまにて開催されました。

■第一部

「理念浸透・理念共感拡大について」理念浸透サーベ
イの結果を踏まえて」と題して、理念共感プロモーターの資格を取得された芝田直前理事長に講師をお務めいただき、出席したメンバーへの質問を交えながら理念共感の必要性を説いていただきました。

■第二部

六つの班に分かれ「理念浸透サーベイによって表出した課題の具体的な解決について」をテーマに、ブレインストーミングを実施しました。各班からはJC歴を問わず活発な意見が出



ていました。

その後、自分の人生理念とJCの理念を照らし合わせて、JCに無知な会員候補者に向けてJC運動・活動の意義を伝えるマイストーリーシートを作成しました。

理念共感プロモーターである芝田直前理事長、山本室長、大越委員に各班を回りながらアドバイスをしていただき、内容をブラッシュアップした後、代表して六名のメンバーが一人ずつプレゼンテーションを行い閉会となりました。

サマーコンファレンス

二〇二四

七月十九日(金)〜二十一日(日)にかけて「サマーコンファレンス二〇二四」が横浜の地にて開催されました。

本大会は開催テーマに「Design the future」を掲げ、理想の地域をデザインする方法を発信していくことを宣言し、様々なセミナーやフォーラムが開催されました。
■一日目・七月十九日(金)
初日は(公社)日本青年会議所スポーツ推進委員会委員として出向されている佐久間副理事長



と、社会構想会議委員として出向されている渡邊委員の委員会を訪問させていただきました。夜には地区ナイトが開催され、東北地区各LOMの多くのメンバーと懇親を深めました。

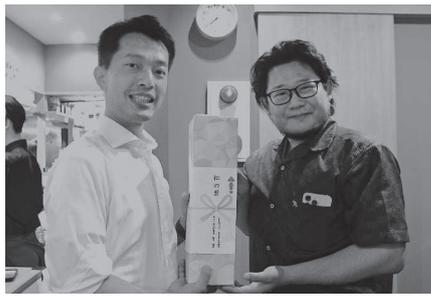
東北青年フォーラムin青森のPRもあり、東北地区の絆の強さを感じる事ができました。

余興で福島ブロック協議会が見事優勝し、柳沼ブロック会長が表彰され、芝田会務担当副会長が閉会の挨拶をされるなど、郡山JCメンバーの活躍が目立っております。

■二日目・七月二十日(土)

二日目は、午前中に会場入りしドローンを使った未来を感じさせるオープニングに参加しました。

前安芸高田市市長の石丸伸二氏や実業家の堀江貴文氏、漫画家の浦沢直樹氏などのセミナーやファンクションがあり、興味のあるブースに皆それぞれ参加していただきました。今話題の人や各界を代



表する有識者の方々によるお話を聞くことで、非常に有意義な時間を過ごすことができました。
夜には(一社)奈良青年会議所様との合同LOMナイトが開催され、友情と絆を深め合い、姉妹JC締結五十年に向けて弾みをつける貴重な時間となりました。菅原東北地区協議会会長にもお越しいただき、挨拶をいただくなど終始盛り上がりを見せた合同LOMナイトとなりました。



■三日目・七月二十一日(日)

最終日は、セミナー「Update the JC」〜みんなで話そう協議会の在り方〜から参加し、(公社)日本青年会議所から小西会頭と菅野顧問、仲九州地



区担当常任理事、松丸関東地区茨城ブロック協議会会長の四人が登壇され、協議会の活用法や、協議会が考える協議会像とL O Mが求める協議会像について、参加者とともに意見を交換しました。

その後、経済アナリストの森永康平氏と森永製菓株式会社 上席執行役員の松本正樹氏を講師にお招きした、ビジネス

イノベーション委員会フォーラムに参加し、一人ひとりが経済と向き合う心を構築する気概を、講師陣とのトークセッションにより高めました。クロージングでは郡山JCメンバーがムービーに映るなどの嬉しいハプニングもありました。

七月例会

七月二十二日(月)、郡山ビューホテルアネックスにて「公益社団法人郡山青年会議所二〇二四年度七月例会」が開催されました。

理事長挨拶では「各委員会の事業計画の振り返り」について語られました。年度初めに作った計画に対して自分の設定したゴール、理想にどれだけ近づけるかが委員会とし



て大事であり、中間地点を迎える今だからこそ事業計画を読み返してほしいとお話がありました。会務報告と各出向者報告が行われた後、二〇二五年度理事長候補者当選証書授与式が行われました。二〇二五年度理事長候補者である佐久間悠治君が登壇し、「誰よりも熱く、誰よりも想いをもって、郡山のために全力で挑戦させていただきます！」と力強く決意を述べられました。続いて次年度専務理事候補者である武田 淳君の紹介が行われ、「佐久間次年度理事長候補者をつかりと一年間支えていく所存でございます！」と宣言されました。その後、織田理事長より当選証書が授与され、力強い握手を交わされました。



後半戦に向けて邁進していくとともに、次年度の始まりを実感した例会となりました。



アンケートのお願い



アンケート QRコード

※ご記入いただいた個人情報は誌面を充実させることや事業へ役立てること以外の目的で使用いたしません。

公益社団法人郡山青年会議所
広報委員会宛
〒963-8004 福島県郡山市
中町5-17 中町スペース3F
FAX: 024-932126857

- 性別 ●年齢 ●関係者か否か
- 興味・共感を持った記事または事業
- 本誌や当団体へのご意見・ご感想
- 当団体にやってほしい事業

本誌や当団体へのご意見やご感想をお寄せください。
郡山青年会議所では本誌や当団体に対するご意見やご感想を募集しています。記載のQRコードから回答いただくか、FAXやハガキに左記項目を明記してお送りください。

Instagram QRコード
フェイスブック QRコード
X QRコード

SNSによる情報発信も
行っています。